

— 気象講演会雑感 —

## 平成10年度気象講演会開催報告

講演会担当幹事 谷 口 恭 (日本気象協会北海道本部)

昨年度は気象学会の秋季大会が札幌で開催されたため、気象講演会は開催せず、2年ぶりの気象講演会開催になった。その概要と雑感を以下に記し、各講演の要旨は別稿に載せる。

日 時：平成10年10月16日(金) 13時～16時30分

会 場：トマコマイ・ホテルニュー王子(2階・若草の間)

主 催：日本気象学会北海道支部

共 催：苫小牧市、苫小牧教育委員会

後 援：NHK室蘭放送局、北海道新聞苫小牧支社、苫小牧民報社、日本気象協会北海道本部、苫小牧測候所

講 演：テーマ「苫小牧周辺の気象と樽前山」

題目・講師

①「苫小牧周辺の霧の特徴」鈴木 一雄(室蘭地方気象台)

②「地球環境問題と地球温暖化」山崎 孝治(北海道大学大学院環境科学研究科)

③「渡り鳥と気象」村井 雅之(日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリ)

④「最近の樽前山の火山活動」笠原 稔(北海道大学大学院理学研究科附属地震火山研究観測センター)

例年、道内各地で開催されている気象講演会であるが、今回は苫小牧市で開催することとした。

苫小牧市は今年、市制施行50周年の年に当たり、その記念行事の一環として気象講演会の開催を歓迎して頂いた。

苫小牧地方は夏季に海霧に覆われることが多い。また、世界的な気象現象として地球温暖化の話題は市民にも興味があると思われる。そして、渡り鳥の中継地であり、ラムサール条約に登録された湿地ウトナイ湖が近くにある。さらに、活動が活発な樽前山に近接しているので、防災上の関心も高いと思われるので、このような講演を用意した。

苫小牧市の担当者には、事前のポスターやチラシの配布にご協力を頂き、市の広報誌へも開催案内を掲載して頂くなど、大変お世話になった。また、機関誌「天気」と「気象」へも講演会開催の案内を掲載した。気象講演会が開催されることについては、地元新聞を始め各紙で取り上げられ、事前の案内の効果がかなりあったと思われる。また、苫小牧民報紙には4日間にわたって、各講演の要旨を写真付きで連載して頂き、市民への気象現象に関する啓蒙や知識の普及に役立ったと思われる。

会場は十分な広さであったが、平日の午後に開催したこともあって、参加者がどの程度になるのか、多少不安ではあったが、かなりの聴衆が集まった。

また、地域の生活に密着した話題から全地球的な話題にまでわたったテーマだったことと、それらの現象が互いに関連していることから、聴衆からの質問も多数あって活発な討論が行われ、市民の関心の高さがうかがわれた。

講演会への参加者は117名で、その内訳は以下の通りである。

やはり、平日の午後だったので、高齢者が多目だったのは止むを得ないであろう。

苫小牧市ばかりでなく、近隣の町村へも広報を行なった効果があるようだ。

- (1) 性別 男性：93名、女性：24名
- (2) 年齢別 20歳未満：0名、20～29歳：9名、30～39歳：10名、40～49歳：25名、50～59歳：28名、60～69歳：29名、70歳以上：14名、年齢不詳：2名、(最年長は85歳)
- (3) 職業別 学生：6名、教員：4名、公務員：32名、会社員：11名、自由業：2名、公共・団体：6名、農・漁業：2名、無職：38名、不明：16名
- (4) 居住別 苫小牧市：86名、札幌市：14名、その他：17名